

土野				
教育部長	課長	係長	係長	係員
				  
				 

公立ホールの運営に係るヒアリングについて（記録）

作成日：令和5年10月18日

作成者：生涯学習課 八巻真一

- 日時 令和5年10月17日（火）13：30～14：30
- 場所 福島市「パルセいいざか」
- 出席者 伊達市生涯学習課 菅野課長、八巻係長
NPO 法人 MDD スタッフ 代表理事 菅野 與志昭 氏
福島市観光開発（株）代表取締役社長 八巻 洋一 氏
[Redacted] 氏

自分たちの思い込みを、ヒアリング??で進める

低レベルな文書で方向性を進める見識を疑う

4. 要旨

- 誰が施設を運営しても同じサービスを提供できるようにする必要がある。属人的ではいけない。
- ボランティアによる支援も大事だが高齢化や後継者不足もあり持続的ではない。
- ふさわしい団体が指定管理者となり施設を運営するのが理想的だが、指定管理料の範囲内での事業実施でよいとなれば地域貢献にはつながらず、施設の存在意義がなくなる。

パルセの運営上での様な問題や成果があったかを聞くのが、ヒアリング要旨-目的が違う名ばかりのヒアリングで何をしたいにか？

5. 協議内容詳細

（菅野課長）

- 別添資料に沿って今回の目的、ふるさと会館の現状等について説明した。

（八巻社長）

- 伊達総合支所の建築委員をしているが、そこでは支所周辺は伊達地域の文化ゾーン、地域の宝と言われており、イオン開業により施設の利用価値が高まるという意見もある。

パルセの運営に渡る話ではなく、自分の意見を展開している

- 組織運営は属人的になってはいけない。誰がやっても変わらないということが大事。

これをヒアリングというのだろうか？

- 指定管理者はふさわしい民間の組織がやるのが理想。
- 指定管理者はいかに地域に貢献できるかが大事。
- MDD ホールも地域発展のための施設であるべきで、だからこそ投資する価値がある。

（[Redacted]）

- 資料に沿って施設の概要、指定管理の状況について説明した。
- 職員は20数年間同じだったが、ここ2・3年で入れ替え、若いスタッフを育成して

いる。外部業者による研修を実施している。

- ・ 指定管理外のところで、イベント企画、会場設営、各種手配（弁当、花束、外部業者手配）、看板作成を行っている。
- ・ パルセいいざか以外の管理施設（四季の里、堀切邸など）との間で職員を融通している。
- ・ 指定管理の仕様書には自主事業は求められていないが、市が提示した目標（入館者数など）をクリアし高評価を受けるには自主事業を実施する必要がある。

（八島社長）

- ・ 人（職員）を回すにはパイ（組織規模）が大きいとできない。単体の施設では厳しい。
- ・ 長くやっている職員が辞めると運営が立ち行かなくなる。外注は必要。
- ・ XXXXXXXXXXのボランティア（支援組織）による運営が流行りだったが、（持続性を考えれば）、今の時代では難しい。
- ・ 指定管理は自主事業で色づけする。指定管理委託料の範囲内で運営するだけでよいなら存在意義がない。
- ・ 指定管理者（公社等）を一本化するにしても、スケールメリットやコストカットだけを考えて関連のない組織を一緒にしても良い組織にはならない。
- ・ 今後、ふるさと会館と連携していければよいと思う。職員の研修など。

ヒアリングののりを超えて、ふるさと会館の運営方針まで「パルセいいざかが」口を出す

唾然とする

公立ホールの運営において確認したい内容について

令和5年10月17日

伊達市生涯学習課

1. 目的

- 伊達市ふるさと会館は、開館以来約30年間、市の直営で運営しており、市と支援組織が協力・連携して文化事業を実施し、一定の成果をあげてきた施設です。
- 一方で、組織の硬直化もあって組織運営上の問題が発生しており、運営方法の見直しを検討する時期に来ているといえます。
- 今後、地域の芸術文化振興事業の核となる文化ホールとしてふるさと会館を維持・運営していくためには、将来的な指定管理も想定し、持続可能な組織経営を行う必要があると考えています。
- ➔ 福島市観光開発株式会社様が管理する「パルセいいざか」を先進事例として、施設の運営方法等についてお聞きし、あわせて、公立ホールの在り方などについて議論を交わすことを目的とします。

もはや、笑うほかない

2. 伊達市ふるさと会館の現状、課題

- ふるさと会館は開館以来、一貫して市の直営により運営しており、現在は市教育委員会生涯学習課が所管し、課長が館長を兼ねています。
- 会館には会計年度任用職員（いわゆる臨時職員）4名を配置し、施設管理、受付、事業企画、舞台・照明・音響操作業務を行っています。施設に常駐する主任管理者は元市職員であり、開館当時から施設の運営にかかわっていました。
- 主任管理者が持つスキルや人的ネットワーク、また、開館の支援団体（ボランティア組織）との連携により、これまで、地方ではみられないような独自の事業を実施し、地域住民に質の高い芸術文化の鑑賞機会を提供してきました。
- 一方で、業務のほとんどをマンパワーに依存してきたことにより後継者が養成ができていないこと、長年ほぼ同じ職員たちで運営してきたことによる組織の硬直化と事業内容の偏重などが課題となっており、それらに起因する問題やトラブルも発生している状況です。

3. お聞かせいただきたいこと

(1) 指定管理の状況

(2) 施設の運営状況

(3) 支援団体（ボランティア組織等）との関わり方

(4) これからの公立文化ホールの在り方、役割等

(5) その他

赤線部分は、具体例を示し客観的評価が出来るか、照明できなければ、誹謗中傷にすら当たる

教育部長	課長	課長補佐	係長	係員
				

公立ホールの運営に係るヒアリングについて（記録）

作成日：令和5年11月13日

作成者：生涯学習課 八巻真一

1. 日時 令和5年11月10日（金）15:00~16:00

2. 場所 福島市「パルセいいざか」

3. 出席者 伊達市生涯学習課 八巻係長
福島市観光開発（株）  氏

4. 要旨

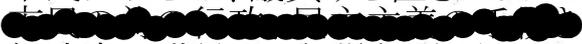
(1) 前回のヒアリングの振り返り

- ・ ふるさと会館の運営においては、組織の硬直化、施設の老朽化といった課題を改善するために、現在の直営方式から今後は業務委託、指定管理へと見直していく必要があると考えている。
- ・ 今後は、施設の運営方針の検討、指定管理者の選定など、段階を踏んでいく必要があるといえる。

(2) 今後の方向性について

- ・ 将来的な指定管理制度の導入を視野に入れていることを説明し今後も定期的な情報交換をしていただくようお願いした。
- ・ 事業の継続性のためには、組織の活性化、専門職人材の確保等が必要であると考えており、一部業務の委託も含め、今後の会計年度任用職員の採用方法を検討していく。

■ 採用方法を変えて不採用とされ、次は自がターゲットされることを恐れ何も言わなくなる 市の言う組織の活性化とは？

■ 10月17日に続き、11月10日にもパルセ側と、伊達市の文化施設を指定管理制度導入を意見交換という形で進める伊達市って気味が悪いし恐ろしくありませんか
市民はおろか、議員すら置き去りにして

伊達市の職員って何様何だろう

■ 指定管理者制度の欠点は10年以上前に結論が出ていて、より良い文化施設の運営は、市民、利用者、企画者に行政が加わって運営していくのはどの自治体も目指しているところなのに、伊達市は失敗作の評価が高いパルセいいざかにご意見を聞いて何をしたいのだろう